

『テイク・シェルター』

2011年／アメリカ／ジェフ・ニコルズ監督作品

STORM IN MY HEAD

会員 大津 理宇 (71期)

1 あらすじ

アメリカの田舎町、男（マイケル・シャノン）は、妻（ジェシカ・チャステイン）と幼い娘と3人で幸せに暮らしていた。男はある日、悪夢を見る。エンジンオイルのような雨が降り、巨大な竜巻が迫ってくる夢を。男は、その日から連日のように同じような悪夢に苛まれるようになる。しかも、悪夢の中では、エンジンオイルのような雨を浴びた人間が理性を失い、男と娘に襲い掛かってくるようになっていった。

男は、精神的な問題を疑う反面、自分の悪夢があまりにリアルなことから、悪夢のようなことが本当に起こるのではないかという不安に取りつかれていく。自宅の庭に使われていない竜巻用のシェルターがあったことを思い出した男は、周囲の反対を押し切り、シェルターの増改築を始める。異常とも思えるほどのシェルターに対する執着から、男は、徐々に周囲の住民から孤立するようになる。しかし、妻が男を見捨てることはなかった。

ある日の夜中、鳴り響くサイレンの音に男は目を覚ます。とうとうあの嵐が来たと考えた男は、妻と娘を連れてシェルターに駆け込む。どれくらい時間が経っただろうか、嵐に怯え、外に出ようとする男に妻は、シェルターの扉を開けるように促す。長い逡巡の末、男は意を決して扉を開ける。そこには、快晴の青空の下、風で倒れたバルコニーの椅子を直す住民達がいるだけの、いつもどおりの平和な風景が広がっていた。男は精神科医の診断を受けることになり、医師からは、今後は、家族と離れて施設で本格的な治療を行うこと、その前に一度ゆっくり家族と休養をとることを告げられる。

男は家族とともにリゾート地のビーチで休養をとっていた。砂遊びをしていた娘が、海を見てふと手を止める。それに気が付いた男と妻が海の方を見ると、男が悪夢で見た巨大な竜巻が海上を覆いつくしていた。

2 結末の解釈

この結末は、一見すると男が本物の予言者であったことを示唆している。

しかし、男が悪夢で見る竜巻は、あくまで男の頭の中のイメージであると考えれば、ラストシーンもあくまで男の頭の中のイメージに過ぎないことになる。そうすると男は予言者でもなんでもない。

では、この結末にはどんな意味があるのか。様々な解釈ができると思うが、私は、この結末は、今後、男が妻と共に自分の不安と向き合っていくことができるという前向きな未来を示しているように思う。

男は、これまで悪夢への不安にあくまで一人で向き合ってきた。嵐は男の頭の中にしかないからだ。もちろん、男は、妻を愛し共に暮らしてきた。しかし、過去の悪夢に登場した「妻」をみると、男は、心の底では妻をあくまで他者としてとらえ、一線を引いていたように思える。それが、ラストシーンの「妻」をみると、男の理解者として悪夢の中に登場している。これは、男が、一連の出来事を通じて、妻に自分の不安を理解してもらえたと感じたことを表しているように思う。男は、孤独の中で自身の不安と向き合うということから解放されたのだ。

いわゆる災害パニック映画と期待してこの映画の視聴を始めたが、いい意味で期待を裏切られる映画だったという点で心に残る映画であった。